



第3回清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会 公共施設再編に関する考え方(おさらい)

2018年10月3日

目次

1 . 清瀬市の公共施設の現状と課題・方向性	3
------------------------	---

2 . 公共施設再編に関する考え方(案)	10
----------------------	----

1. 清瀬市の公共施設の現状と課題・方向性

この検討委員会における「公共施設」とは、いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる市が持つ建物施設を指します

(1) 「公共施設」とは

建物施設
(ハコモノ)



市庁舎



地域市民センター



小中学校



図書館

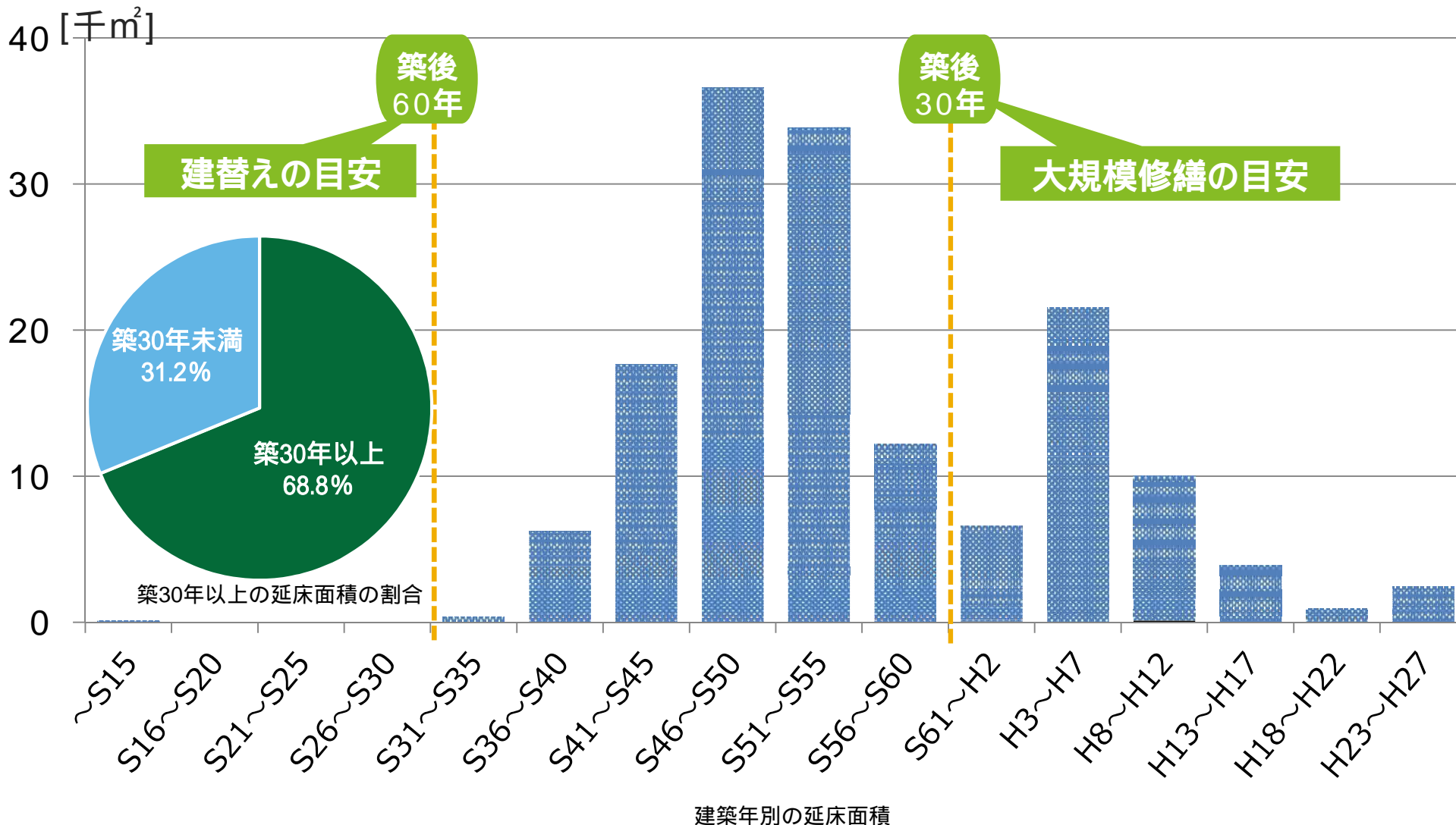


保養施設

など

清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります その一つが、建物の老朽化です

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (建物の老朽化)



清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります
二つ目が、市民ニーズの変化に公共施設が必ずしも対応しきれていないことです

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (市民ニーズの変化)

利用者ニーズの変化



- 人口減少
- 少子化・高齢化 (市民の年齢構成の変化)
- 地域コミュニティの必要性の高まり 等

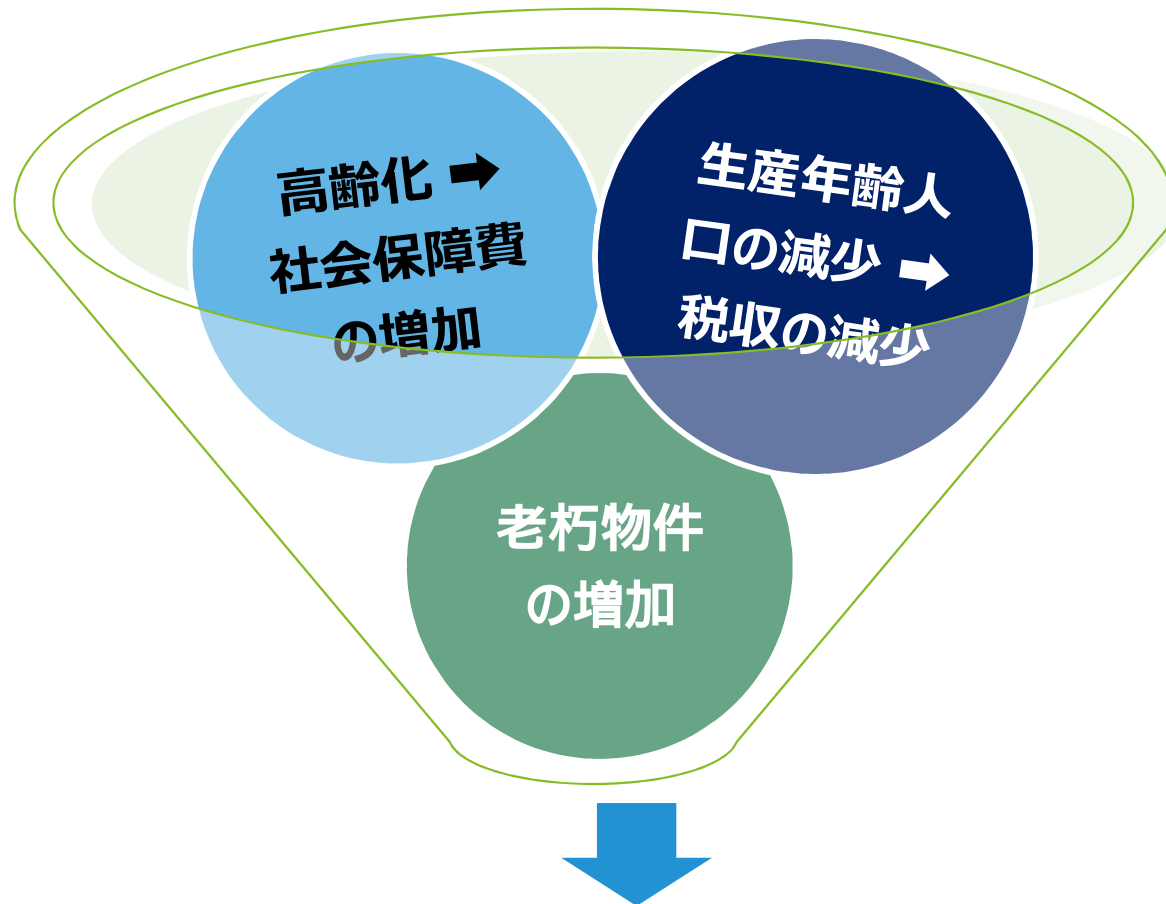


市民サービスとしての公共施設の
数、大きさ、使い方、配置の再検討が必要

清瀬市の公共施設には、大きく3つの課題があります

3つ目は、財政上の制約により公共施設の整備・維持の財源が減少していることです

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (市の財政問題)



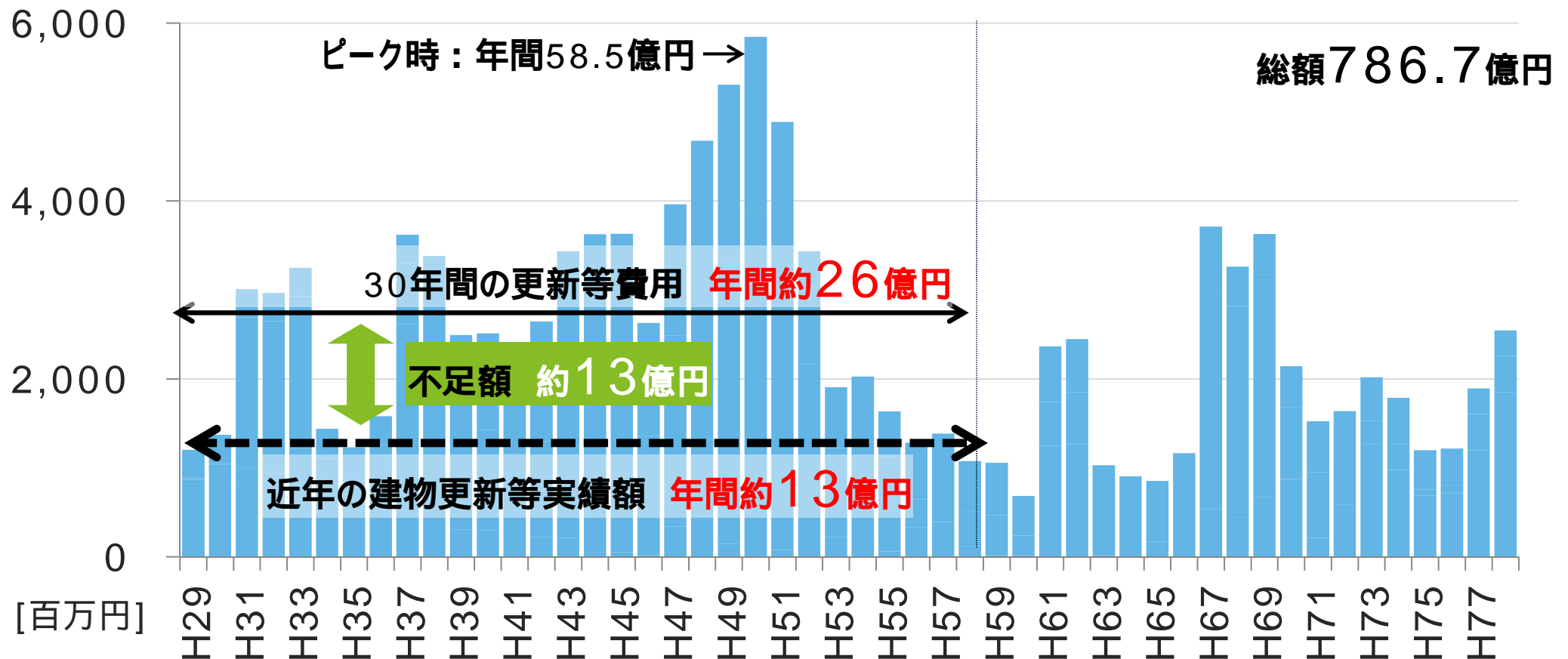
公共施設の整備・維持に使える財源が減少

3つの課題をまとめると、市民のニーズの変化や老朽化に対応し、修繕や建替えが求められますが、財政的制約があり、修繕費や建替え費が不足する状況にあります

(2) 清瀬市の公共施設の課題 (まとめ)

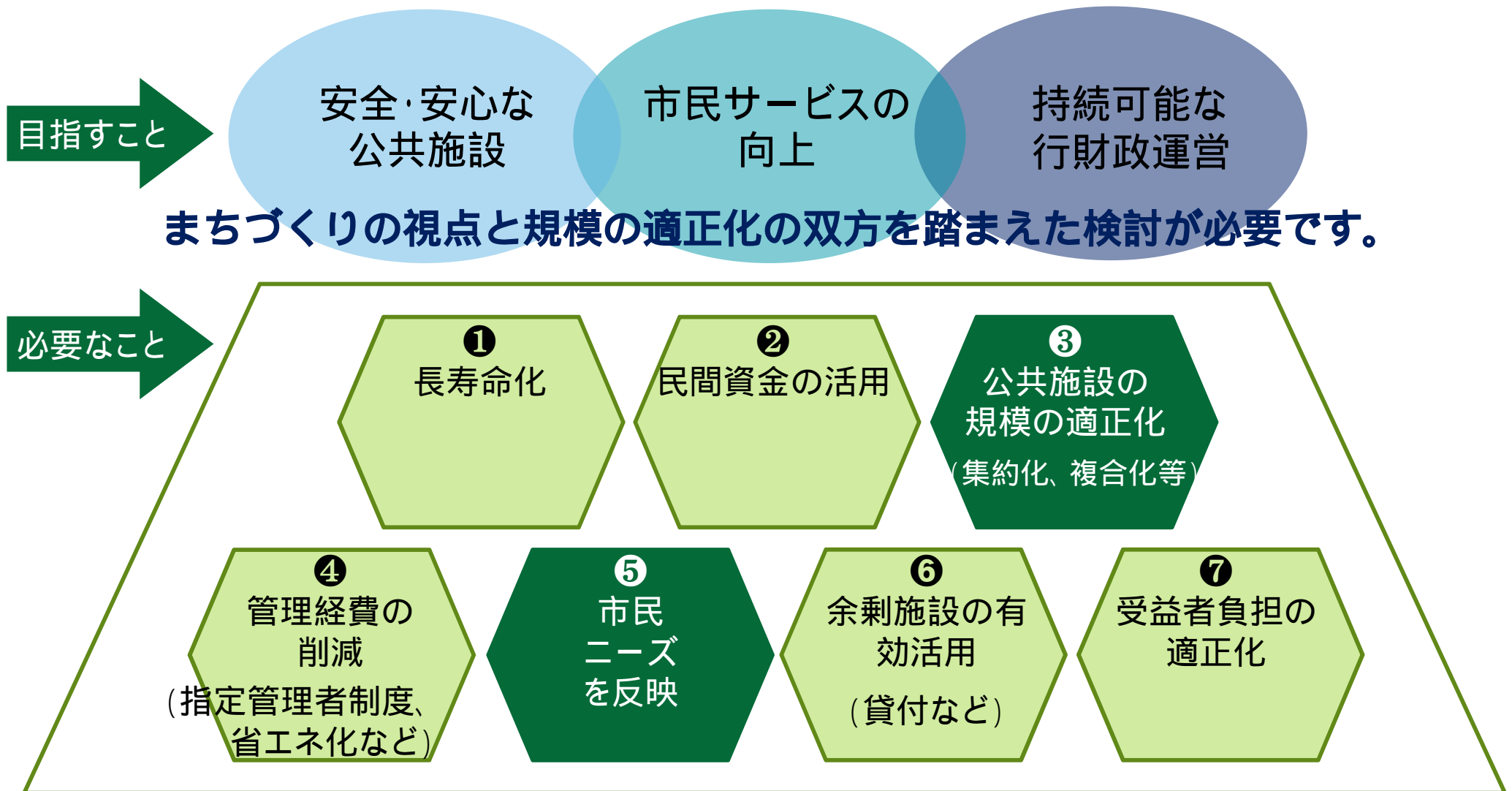
保有施設・インフラを全て維持

今後30年間で786.7億円 (年間約26億円)



市では、「安全・安心」「サービス向上」「持続可能な行財政運営」を目指しています
その一環で「市民ニーズを反映」した「公共施設の規模の適正化」を考えています

(3) 清瀬市の公共施設の方向性



2. 公共施設再編に関する考え方(案)

「市民サービスの向上」と「公共施設の延床面積削減」の両立が基本的考え方です 全市レベル、地域レベルでの“拠点の形成”が基本となります

(1)前提となる考え方の整理

公共施設再編の基本的な考え方

- 市民が生涯住み続けられるまちであるために、コミュニティの維持・活性化と公共施設の接続可能性の両立が求められます。
- 床面積の削減と行政サービスの向上という、一見相反する事項の両立を達成し、市民合意を図る必要があります。

【まちづくりのポイント】

生涯住み続けられるまち(子育て、教育、地域・コミュニティの維持・活性化)
効率的な投資による持続可能な都市経営

【公共施設マネジメントのポイント】

持続可能な公共施設マネジメントのため、複合化・集約化が必要
学校、コミュニティ施設などを中心とするまちづくりと連動した公共施設再編の考え方が必要

具体的な再編の考え方

- より良い市民サービスへの向上と延床面積削減の両立のため、公共施設の拠点化を目指していきます。
- 拠点は、「全市レベルの拠点化」と「地域レベルの拠点化」の2つの階層で構成されると想定しています。

課題1

コミュニティの再形成・活性化、多世代交流など、市民サービスをいかにより良いものに向上させていくのか

課題2

持続可能で安全な行政サービス提供のために、いかに公共施設の延床面積を削減するのか

図 まちづくり及び公共施設マネジメントのポイントと再編の課題

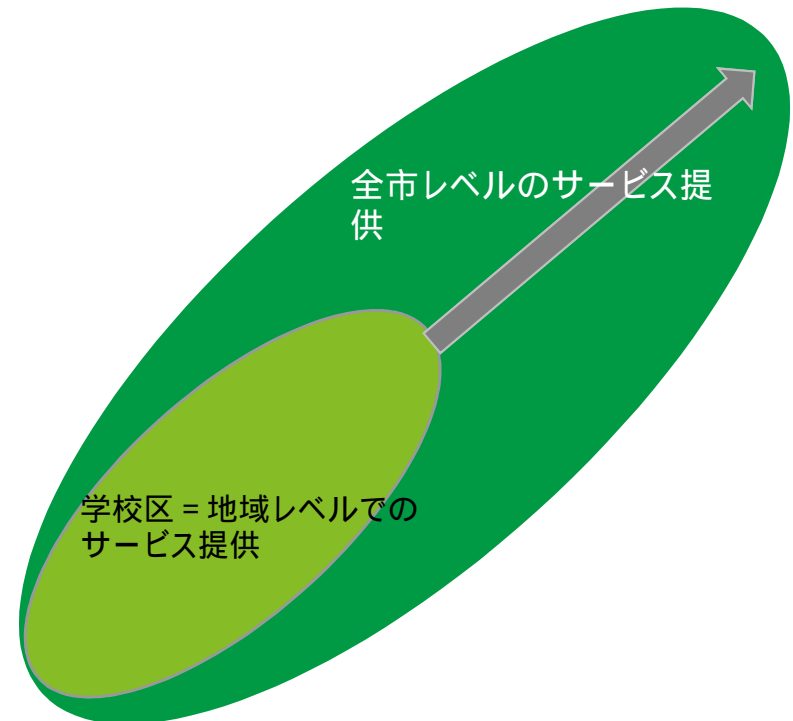


図 全市レベル、地域レベルでの拠点形成による公共施設再編

地域の拠点に貸館や図書館等の地域レベルの公共施設を集約することを考えた場合、これら施設との親和性を踏まえると、小学校を拠点とすることが考えられます

(2) 地域レベルの公共施設再編の考え方

地域拠点の形成を考える単位

- 一般的に、地域の公共施設再編を考える場合は、中学校区単位または小学校区単位で考える場合が多い。
- 清瀬市では、学校と貸館や図書館等の地域レベルの公共施設の両面から地域拠点について検討するため、両施設の親和性を踏まえると、小学校区の方が望ましい。

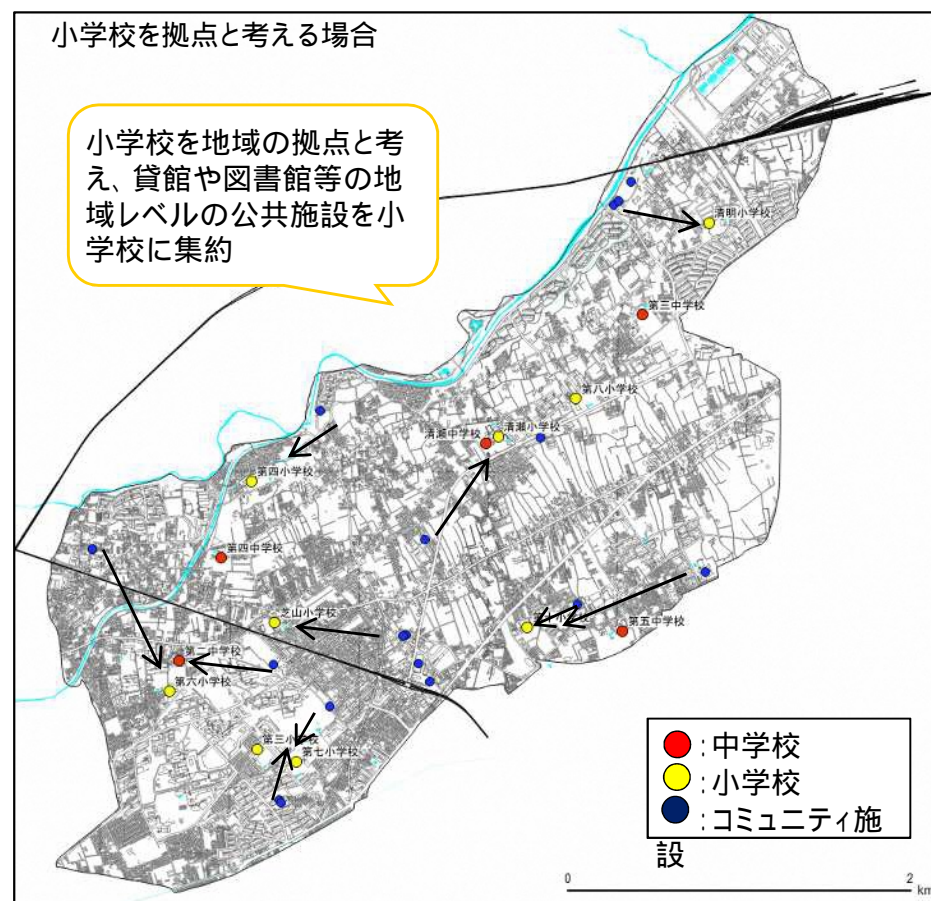
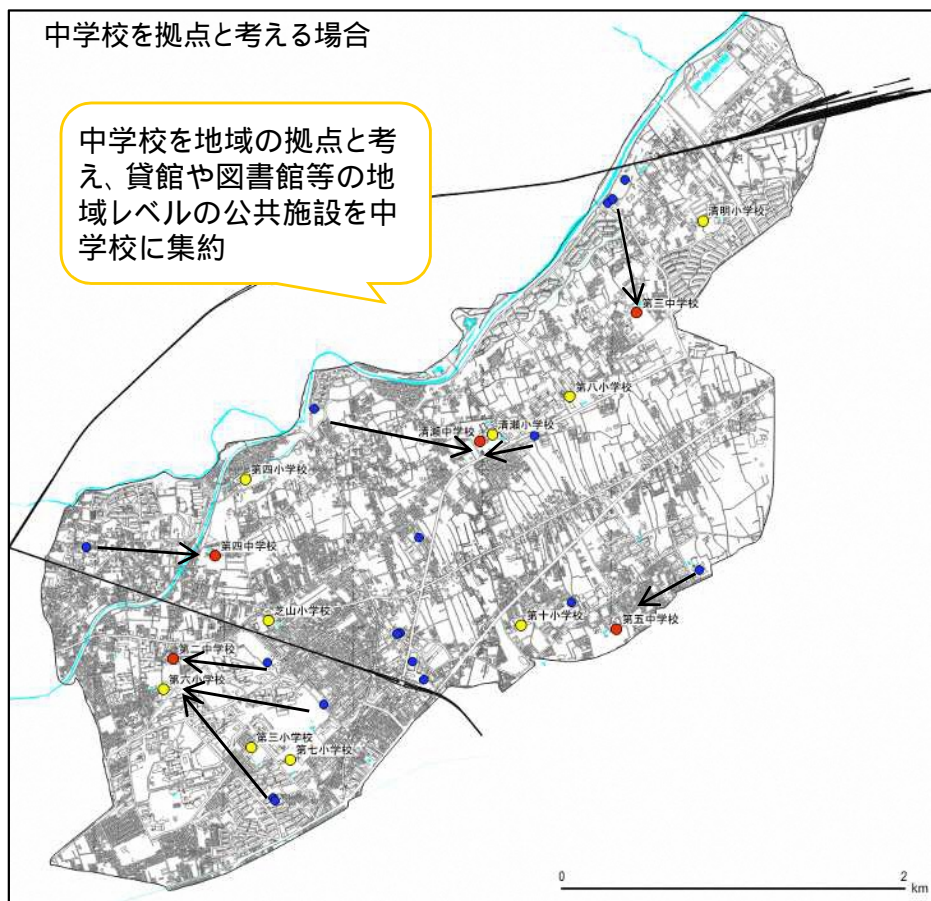


図 中学校を地域の拠点とする場合と、小学校を地域の拠点とする場合のイメージ

地域拠点の形成について検討する上で、小学校の再編と地域コミュニティ施設の拠点化の2つの側面について、何をを目指すのかが論点となります

(2) 地域レベルの公共施設再編の考え方

地域拠点の形成に関する論点

小(中)学校の再編を想定するかどうかを判断。
判断基準として、「教育サービスの水準」「将来の児童数」「小学校の配置」

判断。地域コミュニティ施設を拠点化するか、分散配置するかを判断基準として、「サービスの水準」「必要規模」



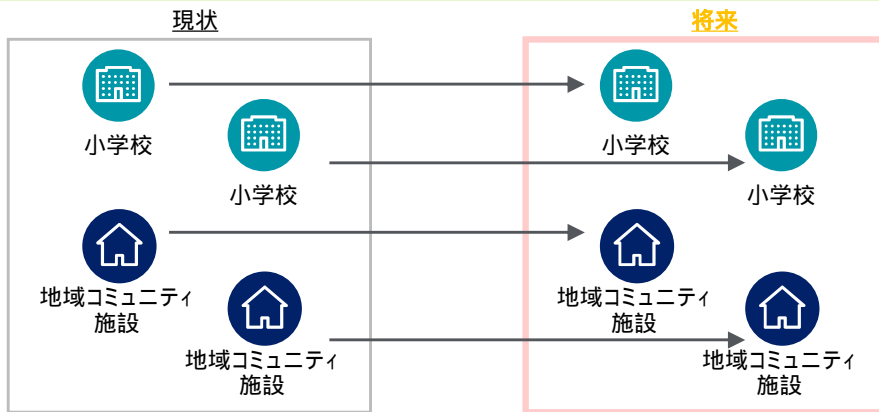
図 地域拠点の形成に関する論点整理

小学校の再編の有無、地域コミュニティ施設の拠点化の有無を組み合わせた4通りの将来像が考えられます

(2) 地域レベルの公共施設再編の考え方

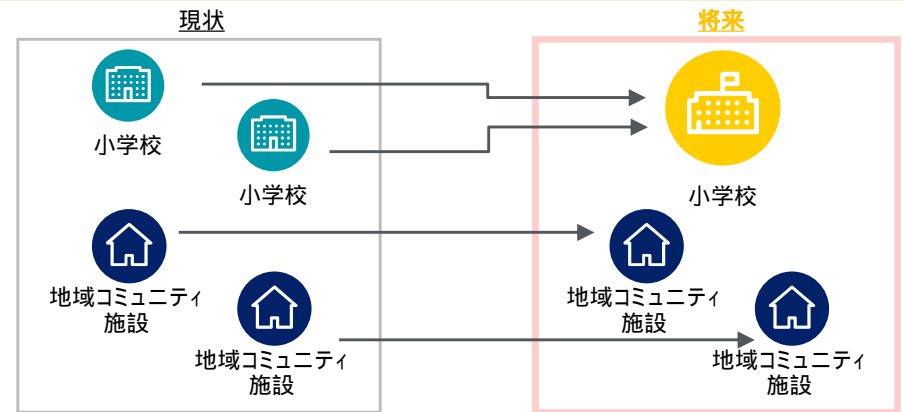
現状維持

- 小学校と地域コミュニティ施設は現状のまま維持します。
- 空き教室発生時などにのみ、複合化等を検討します。



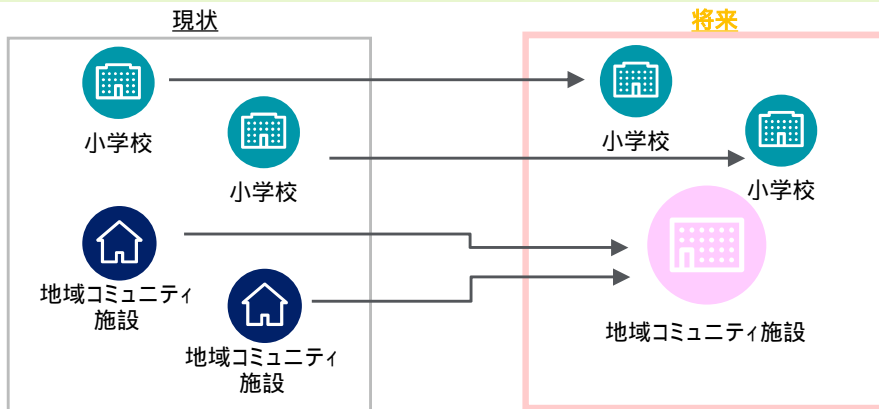
小学校再編のみ

- 小学校は再編し、地域コミュニティ施設は現状のままとします。



地域施設の拠点化の実施のみ

- 小学校は現状のままとし、地域コミュニティ施設を拠点化します。
- 現在の地域市民センターを核とすることが考えられます。



小学校再編と地域施設の拠点化を同時に実施

- 小学校は再編し、地域コミュニティ施設と拠点化します。
- 両施設を集積し、地域の多様なサービスの拠点とします。

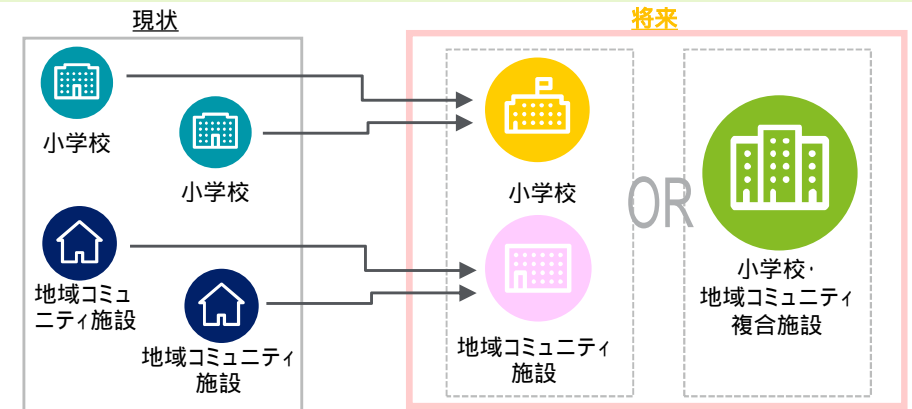


図 地域拠点の形成パターンのイメージ

清瀬市の公共施設の問題を解決するには、課題はあるものの「**小学校の再編と地域施設の拠点化を同時実施**」が有効だと考えます

(2) 地域レベルの公共施設再編の考え方

— 目指す姿 — — 床面積の削減効果 — — 教育の質問題への効果 — — 放課後の居場所への効果 — — 利用者嗜好への対応効果 — — 施設規模の確保 —

目指す姿	床面積の削減効果	教育の質問題への効果	放課後の居場所への効果	利用者嗜好への対応効果	施設規模の確保
現状維持	最小 空き教室などに他の機能が 入った場合のみ削減可能	無 少人数学級や 1学年1クラスといった 問題が生じる	小 空き教室が出た場合のみ 学童クラブの拡大などが可能	無	現状
地域施設の拠点化のみ	小 地域コミュニティ施設の 床面積が削減される	無 同上	小 拠点に児童館を設けることで 新たな居場所を創出	有 現在の市民の嗜好に合わせた 施設に更新することが可能	現状+α
小学校の再編のみ	大 公共施設の過半を占める 小学校の床面積が削減される	有	中 小学校再編時に 新たな学校に学童クラブ新設	無	現状+α
小学校再編と地域施設の拠点化を同時実施	最大 小学校と地域コミュニティ施設の 床面積が削減される	有	大 学童クラブと児童館を併設し、 多様な放課後の居場所を提供	有 現在の市民の嗜好に合わせた 施設に更新することが可能	大規模 小学校と地域コミュニティ施設 両方の床が必要

図 地域拠点の形成パターンの比較